

市長の施政方針に対する文書質問への答弁

会 派 名	質 問 議 員
はつらつ創造	金子 広和 議員
<p>金子広和議員の施政方針に対する質問に順次お答えをいたします。</p> <p>テーマ1－①につきましては、コロナ禍の状況を踏まえとは、新型コロナウイルス感染症の影響による経済的な悪影響が及んでいることを踏まえということであり、就学援助事業については、状況を踏まえ、昨年実施しました特例制度と同様の制度を検討してまいります。また、コロナ禍において、申請者が増加し、当初予算の不足が想定される時には、速やかに増額補正を行い、支給できるよう対応してまいります。</p> <p>奨学金貸与事業は、大幅に収入が減少した世帯を対象に、特例制度を実施したところであり、令和3年度も状況を踏まえ、同様の制度を検討いたします。また、受付期間を10月及び2月としておりますが、学生が年度途中でも学資金の貸与を受けられるよう、随時受付を行い対応してまいります。</p> <p>テーマ2－①につきましては、入間川とことん活用プロジェクト事業は、世代を問わず親しみを持って訪れる人の憩いの場となることを目指すとともに、にぎわいの場として広域から子どもたちが集まる遊び場を目指して整備を進めてきたものであります。</p> <p>また、交通渋滞対策につきましては、すでに入間川にここテラス内の駐車場を拡張するとともに、混雑時には、昭代橋下流側の臨時駐車場を案内することや、民間の飲食施設においても、警備員を配置するなどの対策を講じて、渋滞の緩和を図ってまいります。</p> <p>テーマ3－①につきましては、現時点では、「ふれあい健康センター」と「農村環境改善センター」であり、再開時期につきましては、感染状況の動向等を勘案した上で決定してまいります。</p> <p>テーマ4－①につきましては、公式ホームページの掲載に合わせて、狭山市公式ソーシャルメディアの利点である即時性を生かし、速やかに情報発信するものであります。</p> <p>テーマ4－②につきましては、新年度も引き続き実施することとしております。また、これまでの寄附の実績について、寄附者の職種は把握できませんが、件数は118件であります。</p> <p>結びに－①につきましては、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会によれば、感染リスクが高まる「5つの場面」として、飲酒を伴う懇親会、大人数や長時間に及ぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わりなどが挙げられています。こうした見解を踏まえ、家族、職場、親しい友人同士など人間関係が近い間柄での感染防止策を講じない接触などが感染を拡大している原因になっていると認識しております。</p> <p>結びに－②につきましては、私たちの生活を介して拡大した新型コロナウイルス感染症を食い止めるには、人と人との社会的距離をとること、日常生活における様々な活動を制限すること、不要不急の外出を控えることなどが求められ、これにより私達が日常生活を送る上で築き上げてきた人間関係、まさに「絆」が希薄になりかねないことを表現したものであります。</p> <p>結びに－③につきましては、新型コロナウイルス感染症が国内で発生して以来、</p>	

これまでも「コロナに負けない」を合言葉に様々な施策を講じてまいりました。この感染症を克服することこそが、私達の日常を取り戻すために必要であり、市民から求められていることでもあります。決して負けないという強い覚悟で、多くの人のご協力をいただき、立ち向かう決意を込めたものであります。

結びに④につきましては、アフターコロナを見据え、これまで以上にAIやIoTなどデジタル技術を活用することでスマート自治体への転換を加速し、新しい価値観のもとに行政を進めていこうとするものであります。

結びに⑤につきましては、アフターコロナにおける「新たな日常」いわゆるニューノーマルの時代に、デジタルトランスフォーメーションを始めとした社会の変革に市としていち早く対応し、市民や事業者にとって利便性が高く、安心と幸せを実感できる狭山市をイメージしたものであります。

以上であります。